

2011 **10**

14号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



Matsumoto Medical Center

理
念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

まつもと医療センター

- ◆ 統括診療部長就任ご挨拶 2
- ◆ 緩和ケア認定看護師が誕生しました 3
- ◆ 臨床倫理講演会報告・第1回医療安全研修を終えて 4
- ◆ 2011年市民公開講座のご報告 5
- ◆ かかりつけ医制度の推進 5
- ◆ ムーブメント教育・療法セミナー 6
- ◆ 肺がんの個別化治療 最近の診療トピックス 7
- ◆ 松本病院 循環器科紹介 8
- ◆ 小金平産婦人科・皮膚科医院紹介 10
- ◆ 病院祭が開催されました 11
- ◆ お知らせ 12

統括診療部長就任ご挨拶



統括診療部長

いわ さき やすし
岩 崎 康
(中信松本病院)

このたび、7月より中信松本病院の統括診療部長を務めさせて頂くことになりました、小児科の岩崎です。

中信松本病院は3年前の春に松本病院と1組織2病院体制となりました。消化器内科・外科は松本病院に集約され、小児科は松本病院と集約して現在の体制となりました。私自身も松本病院から中信松本病院に異動し、それぞれの病院の良いところも悪いところも両方に気づくことができました。統合・集約については賛否両論ありましたが、より多くの小児科が集結することにより質の高い診療内容になったものと感じております。

そして、2年後を目標に、今度は両病院全体を村井の松本病院の地に新生まつもと医療センターとして統合することとなりました。中信松本病院は療

養するのにはとても環境の良い立地であり、地域の患者さんからは移転しないでこのままの場所での診療を要望される声もいただきますが、統合により両病院の機能が有機的につながりよりよい医療が実践できるものと確信しておりますので、ご理解いただきたいと思います。

さらに、中信松本病院は今年の11月に病院機能評価の更新審査を受審する予定になっています。医師・看護師はもちろん、全ての病院職員が当院の理念「質の高い、やさしい医療」が実践できるように患者さんの目線・気持ちにたった、様々な「改善」に取り組んでおります。地域の方々にも近隣の医療機関にも、親しみやすく頼れる病院をめざしてまいります。

このような大切な時期に中信松本病院の統括診療部長を命じられました。とに、責任の重さを痛感いたしますが、両院がスムーズに統合され、松本地域の基幹病院としてさらに充実した病院をめざし、職員一丸となって取り組んでいけるようにがんばりたいと思います。患者さんや地域の医療機関の先生方には、ひきつづきご指導いただきますようお願い申し上げます。

まつもと医療センター理念

理 念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

基 本 方 針

1. 医学的根拠に基づいた医療を安全に提供します
2. 適切かつ十分な説明を行い、理解と同意を得た医療を提供します
3. 患者さんの思いを大切に、敬意と思いやりの心で接します
4. 地域の医療機関と連携し、地域医療の向上に努めます
5. 教育研修の充実を図り、職員の能力向上と人材育成に努めます
6. 常に前進・研鑽し、臨床研究を通じて医療水準の向上に努めます
7. 明るく健全な病院経営を行います

患者さんの権利

わたしたちは以下の患者さんの権利を守り、最善の医療を提供するように努めます。

1. 良質かつ適正な医療を平等に受ける権利
2. 自己の病状や予後・治療の手順とその危険性および有益性・代替手段についての十分な情報提供を受ける権利
3. 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
4. 意思に反する場合、情報を知らされない権利
5. 検査の諾否や治療法の選択について、自らが決定する権利
6. いつでも自己の決定を取り消すことができる権利
7. 個人の医療情報に関するプライバシーが守られる権利
8. 健康教育を受ける権利
9. 人格や価値観が尊重され、尊厳を保って生を全うする権利

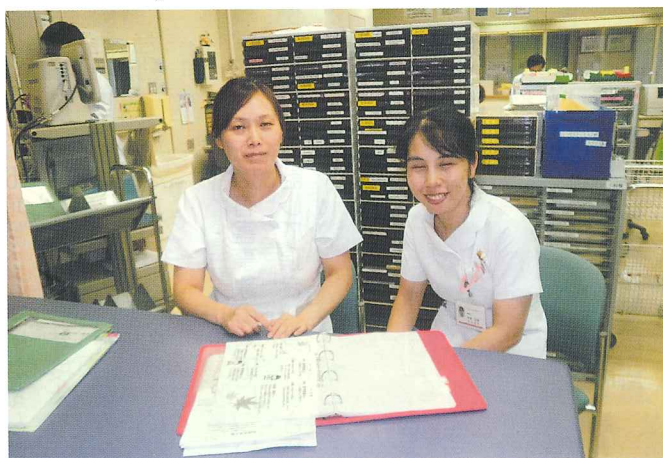
緩和ケア認定看護師が誕生しました

今年の6月、まつもと医療センターに私たち2名の『緩和ケア認定看護師』が誕生しました。それまでは、一人は緩和ケアチームの専従看護師として、一人は病棟に所属し、それぞれの立場で、もつとがん患者さんの苦痛を軽減できないか、QOLを高める手立てはないかと自問自答を繰り返していました。そして自分自身の力と所属する医療チームの力を高めていくために、緩和ケアの専門的な知識・技術の習得、患者さんやご家族の側にいる主治医や担当看護師を支援していく力をつけることが重要だと思い、緩和ケア認定看護師を目指し資格を取得することができました。

『緩和ケア』は、がんと診断されてから、病状の進行や治療に合わせて介入の割合が変化していきます。早期からの介入が望ましく、治療に伴う身体症状の緩和や診断時の補足説明、意思決定の支援や精神的ケアが必要な患者さんやご家族がほとんどです。手術療法で入院された患者さんから、化学療法・放射線療法・終末期の患者さんまで、日々患者さん・ご家族と向き合い病棟スタッフと相談し、闘病を支援していくために必要なケアを充実させていきたいと考えます。また、松本病院ではペインクリニックを含めた緩和ケア外来を開設し、必要な治療ケアの実施、必要な職種への橋渡しを速やかに行っています。また緩和ケアの提供を、がん患者さんのみだけでなく、非がん疾患の患者さんにも対象とした動きがあり

ます。中信松本病院は、神経難病や慢性呼吸器疾患などの医療を提供しており全人的な苦痛を抱える患者さんが多く、その患者さんの緩和ケアも視野に、活動をしていきたいと思っています。

現在は松本病院と中信松本病院でそれぞれの立場で活動していますが、今一番取り組んでいることは、二つの病院が一つになって緩和ケアチームの存在を患者さん・ご家族に広く知って活用していただき、多くの患者さんが楽になること。そして最善を目指し、その人らしさを支え、QOLの維持・向上を目指し、患者さんやご家族が望む生活ができるよう、主治医や担当看護師、また、地域の皆様と協力しながら、日々努力していきたいと考えています。



山添 美保・唐澤 由美
やまぞえ みほ からさわ ゆみ

“医療倫理へのナラティブ・アプローチ” 臨床倫理講演会

医療倫理の基本的原則は、「ヒポクラテスの誓い」（紀元前400年）に始まります。近年、「自立尊重」が重要視されるようになり、医療倫理観に変化が起っています。

平成23年9月6日、新潟大学医学部保健学科教授の宮坂道夫先生（松本市出身）をお招きして医療倫理の講演会を開催しました。146名の職員が聴講し、医療倫理の歴史、医療倫理の4原則、4分割法等の手法、ナラティブ（物語）について、そして臨床の場の倫理的問題にどのように「ナラティブ・アプローチ」するのか事例を通して学びました。その手順は、①患者、家族、医療者それぞれの「物語」（思っていること、感じていること）の「肝心な内容」を整理する。②対話により直接把握することが最も望ましい。③不可能な場合は、書き残したこと・伝聞から想像する。④それぞれの「物語」の対立点がどこにあるかを考察する。⑤それぞれの立場にとっての「避けたらシナリオ」とはどんなものか、考察する。⑥それを回避する手段があるかどうかを検討する。⑦すべての人が「どうにか受け入れられるシナリオ」を想像し、それに近づくための手段（コミュニケーション、人の配置など）を検討する。

これを機にナラティブ・アプローチを日常診療に役立てていきたいと思っています。



新潟大学医学部教授
宮坂 道夫 先生

副院長
臨床倫理委員会
北野 喜良

中信松本病院
医療安全係長
石井 優子

第1回医療安全研修「NTT東日本関東病院の取り組み」を終えて

NTT東日本関東病院の専任医療安全管理担当 栗原博之先生をお招きし、講演会を行い、137名の参加がありました。

NTT東日本関東病院は、JCI（Joint Commission International）の審査を受け、国内では2番目にJCI認証を得て、安全な医療を提供するための取り組みを積極的に行っていることを紹介して頂きました。国際患者安全目標（ISGs）を取り入れ、「患者を正確に確認すること」「効果的なコミュニケーション」「医療関連感染のリスクの低減」「転倒による患者の負傷のリスクの低減」など、6項目の具体的な取り組みを紹介して頂きました。当センターも今年度より「医療安全全国共同行動」に参加し、患者と共に医療を行うことを目標に活動しているため、とても参考になりました。

また、講演の後半には有害事象の対応について、具体的な事例を通してお話して頂き、身の引き締まる思いでした。これからも患者さんにとっての安全・安心な医療を提供できるよう、日々、努力していききたいと思っています。



NTT東日本関東病院
栗原 博之 先生

市民公開講座のご報告

2011年の市民公開講座は、7月3日(日)に松本病院会議室で行われました。市民公開講座は2007年から年1〜4回行ってきましたが、大方のがんは一通り終わりましたので、今回は公開講座に先立って、5月に患者さんを対象にアンケートを行い、一般の方が日頃疑問に思っていることを中心にお話しをし、かつ当日来られた方の質問に答える形としました。アンケートは46人53件集まり、多かったのはがんの発生に関する質問でした。そこで今回の市民公開講座のテーマをへどうしてがんになるの? あなたの疑問に答えます」としました。

6月30日の地震の影響も心配されましたが、当日は43名の参加があり、小池よりがんの発生についての総論をお話しし、次に5大がんと血液のがんについて宮林、近藤、北野、小池よりお話をしました。休憩を挟んでがん治療にかかる費用や介護について小林ソーシャルワーカーより話をし、最後に会場から質問を受けました。医師4人とソーシャルワーカー

1人でどんな質問が出るか冷や冷やしていましたが、大方の質問にお答えできたように思います。質問は多岐にわたり、回答者も思わず顔を見合わせる難題もありました。参加者のアンケートでは、非常にすばらしいプログラムだったとの評価もいただき、好評多数でした。院内掲示以外に新聞や市町村広報により知った方が多く、やはり多方面にわたる広報の大切さがわかりました。ご協力いただいた講師の方々、事務や看護部の方にお礼を申し上げます。来年もまた趣向を凝らして行いたいと思います。



救急医療部長 小池 祥一郎
こいけ しょういちろう

かかりつけ医制度の推進

まつもと医療センター松本病院は、地域の病院や診療所等と連携して患者さんへ質の高い医療をより効率的に提供する役割を持った病院として、平成21年「地域医療支援病院」に承認されました。当院は、地域における急性期医療を主に担当し、診療所等と役割を分担することで、地域の医療機関が相互に連携する「地域完結型医療」の実現を目指したいと思います。つきましては、一貫した連続性のある医療(医療連携)を患者さんに提供するため、「かかりつけ医」を推進しておりますのでご協力をお願いします。



ムーブメント教育・療法セミナー



まつもと医療センター・中信松本病院では、ムーブメント教育・療法セミナーを1999年から始めて今年で13年目を迎えています。実行委員長である中信松本病院小児科医長石田修一先生を中心に、全国の受講者の方々とともに「ムーブメント教育・療法」についての知識や技術を習得しようとする療法の第一人者で和光大学現代人間学部教授小林芳文先生をはじめ多数著名講師のご指導のもと、ムーブメント教育・療法の理念から実践までを現場で活かすために2日間にわたり講義と実践を行いました。様々な症例を聴きながら確実に効果がみられていることにいつも感動しつつ参考にする受講者の方も多いようです。開催場所も全国規模で拡大し現在では、北陸支部・大阪支部・関東支部でこのセミナーを開催しています。

「ムーブメント教育・療法」とは、どのような特徴があり、誰が対象でどんなことを行う活動なのか、その特徴は、自然教材や楽器・スカーフ・ロープ・ボールなど色・質感・動きの違いから様々な反応を導き感覚機能の向上を促しながら心地よい揺れな



どを使い訓練ではなく遊びの要素を取り入れて楽しさ、喜びを経験することにより自発的動きや快の表情を引き出し発達を促す活動です。また、MEPA-IRという評価を用いて対象者の発達を正確に捉え、プログラム立案・実践・再評価といった系統的な取り組みを行うものです。子供から高齢者まで誰もが対象だが、特に障がい児の教育現場で多く実践されています。

今年も、8月20日～21日、松本市Mウィングにて総勢150名の参加者により楽しく講義を受けることができました。プログラムでは症例発表や実技があり、親御さんと共に実技に参加された障がいを持つお子さんは、名前を呼ばれると大勢の人に注目されている雰囲気を感じ、表情がどんどん明るくなり自ら元気に返事をして、自分の持つ最大の能力を思い切り発揮される方もいました。また、薄い布で作った直径3～5mのパラシュートの真ん中に風船を投げ入れみんなが一斉にパラシュートを上下させる場面では参加者全員がひとつになることができました。

このセミナーにより楽しさを共感し発達を信じていることの大切さを再確認できました。今年のセミナーは盛況のうちに幕をとおることができましたが、来年もたくさんの方の受講者が来る事を期待しています。

療育指導室主任保育士 白藤 洋子
しらいち しょうこ

リレー形式

最近の診療トピックス(21)

肺がんの個別化治療

肺がんは、現在日本で最も死亡者数の多い悪性腫瘍です。この肺がんに対しては、主に外科治療（手術）・化学療法（抗がん剤）・放射線治療の3種類を組み合わせて治療を進めていくのですが、今までは、肺がんを大きく小細胞肺がんと非小細胞肺がんに分けて、がんの進み具合（進行度）を考え合わせて治療方針を決めておりました。

しかし、特に化学療法においては、同じように治療をしても、抗がん剤の効果が大きい方・小さい方、副作用の強い方・弱い方がおり、どうしてそのような違いが出るのかは長い間大きな謎でした。ところが最近、膨大な症例の蓄積により、ひとくちに「肺がん」といっても、がん遺伝子の変化やがんのタイプがそれぞれ違うことが徐々に分かってきました。そして、一定の遺伝子の違いやタンパク質発現の違いをバイオマーカーとして、治療の効果や副作用の程度を予測し、その人に合った抗がん剤など治療法を選択するという考えで始まったのが、「個別化治療」です。この個別化治療のメリットは、効果の期待できる薬を選択できるといっただけでなく、無駄な治療を省くことができ、重い副作用を避けることもできます。

代表的なバイオマーカーと抗がん剤の組み合わせとしては、EGFR（上皮成長因子受容体）遺伝子変異とゲフィニチブ（商品名イレッサ）があります。ゲフィニチブは、EGFRをターゲットにした分子標的薬という薬ですが、がん組織にEGFR遺伝子変異がある場合には非常に効果が高いことが知られています。一方、EGFR遺伝子に変異がない場合には、むしろ通常の抗がん剤よりも効果が落ちるといわれています。また、

ALK遺伝子が強発現した肺がんでは、ALKをターゲットにしたクリゾチニブという分子標的薬が効きやすいという報告もあります。

肺がんに対してイリノテカン（商品名トポテシン）という抗がん剤を使用することがありますが、時に下痢や白血球減少など重い副作用が出現する場合があります。この抗がん剤は肝臓でグルクロン酸転移酵素（UGT）によって解毒され、体外へ排出されます。このUGT活性がもともと低下している患者さんでは、イリノテカン使用により、重い副作用が出現するリスクが高くなるため、UGT遺伝子型を調べることにより副作用の重さが推定できます。

ところで、外科治療に関しても、個別化治療をしようという動きがあります。CT画像で「すりガラス濃度の結節」を特徴とする腺がんの一種で、「細気管支肺胞上皮がん」というタイプの肺がんがありますが、これは、他のタイプの肺がんと比べてゆっくりと進行することが知られています。このような「すりガラス濃度」の小さな肺がんに対しては、通常の外科治療と比べて、切除する肺の容積を減らしても再発率など治療効果は同等に保たれることが知られてきました。今後は、外科領域においても個別化治療という考えが浸透していくものと思われます。

現在、保険適応となる遺伝子検査は一種類のみで、個別化治療を十分に行える環境とはいえないのですが、バイオマーカーに基づく個別化治療は、今後肺がんを始め、様々な種類のがん治療において重要な位置を占めるようになるものと思われれます。

呼吸器外科医長
近藤 竜一
（ちんどうりゅういち）



科 紹 介

心不全センターについて

当院循環器科は平成21年10月より心不全センターを開設し、専門的な入院患者管理を行っています。心不全は様々な心疾患が原因で引き起こされますが、ひとたび心不全を生じた場合、心臓病患者の予後やQOLに大きく影響してきます。近年、心不全治療に関する多くのエビデンスが構築されてきましたが、高齢者を中心に心不全患者数は増加の一途をたどっております。このような背景の中、当院心不全センターは、心不全患者の急性期治療から慢性期のリハビリまでを専門的に管理し、近隣診療所の先生方との病診連携を深めな

がら、心臓病の予防も含めて総合的に管理できるセンターを目標としています。具体的な取りくみは以下のとおりです。①EBMに基づいた最良の心不全治療を提供する。②息切れや呼吸困難を主訴とする救急患者を積極的に受け入れる（中信松本病院呼吸器科や松本病院麻酔科と連携しながら対応する）。③最新の非侵襲的画像診断（心エコー、心筋SPECT、MRI、CTなど）を駆使し、心不全の原因疾患や心筋疾患の確かな診断を行う。④近隣の先生方と心不全患者に対する地域連携パスを運用し、病診連携を図る。⑤睡眠時無呼吸症候群や、高齢者も含

めた心不全患者に対する運動療法を積極的に取り入れる。⑥心不全に対する新たな治療に取り組む。⑦特殊な心筋疾患の専門的治療（心臓サルコイドーシスに対する免疫抑制療法など）、などをあげていきます。



循環器科
堀込医師

矢崎部長

関医師

循環器

心不全には、貧血、腎機能障害、睡眠呼吸障害、慢性肺疾患、糖尿病、免疫異常など様々な増悪因子が存在し、全身疾患の様相を呈しております。貧血と腎障害を呈する難治性心不全に対してエリスロポイエチン治療を行い良好な結果を得ております。新しい人工呼吸器を用いて、心不全急性期や増悪期の患者に対して非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）を積極的に導入し、挿管を回避しています。また重症心不全患者に合併した睡眠呼吸障害に対して在宅酸素療法や持続陽圧呼吸療法（CPAP）を、最近では適応補助換気（ASV）を積極的に導入しております。



検討会の様子

これらの集学的治療により、長期にわたる強心薬依存状態から離脱可能となることもあります。高齢者心不全患者には多職種による包括的医療の実践が不可欠です。毎週1回、リハビリスタッフ、看護師、栄養士、ソーシャルワーカーなど

の多職種が一堂に会し検討会を行っています。

外来については、毎日午前中に

新患担当の循環器内科医が対応し

ますので、胸痛、動悸、息切れ、

むくみ、心電図異常などの患者さ

んがおられましたら遠慮なくご紹

介下さい。本年4月から、火曜日

午前中に信州大学循環器内科宮下

裕介先生による血管専門外来を開

設しております。先生は全国的に

も有名な血管治療のスペシャリス

トです。閉塞性動脈硬化症などの

患者さんがいらっしゃいましたら、

ご紹介をよろしくお願いいたします。

循環器科部長、心不全センター長

矢崎 やさき

善一 よしかず

小金平産婦人科・皮膚科医院紹介



こがね ひら みのる 先生
小金平 稔 先生
こがね ひら ようこ 先生
小金平 容子 先生



診療時間

時間／曜日	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	×	○	○
15:00～17:45 (皮膚科のみ)	○	○	○	×	○	×

* 休診日／木曜日・日曜日・祝日 * 土曜日は午前のみ * 産婦人科外来は午前のみ

〒399-0006 長野県松本市野溝西1-9-39
産婦人科 TEL (0263) 25-1128 皮膚科 TEL (0263) 24-2012
URL: <http://www15.plala.or.jp/koganehiracclinic/>

奈良井川のほとり、二子橋の近くに医院を開いて40年近くたっていました。映画やテレビでは一瞬に画面が変わり、それから何十年といった画面がよくありますが、考えてみますと自分の一生もほんの一瞬であつたかなと思われまふ。

私共が取り上げた赤ちゃんが、今度は自分のお産で来られたり、大きくなった子供さんを連れてお出でになると自分の孫のように思われます。中には産婦人科の医師になって信大病院で活躍している人もいて嬉しく思っています。思わず苦労だけど頑張つてねと心からエールを送つてしまします。

お産を扱うということは大変体力を要します。重い大きな物を持ち歩くといった体力ではなくて不眠不休に耐える体力です。若い内は良いのですが、長年やるとやはり定年という言葉はいやでも思い知らされます。そう

いうことから残念ながら十年ほど前にお産を止めて以来、外来だけの診療にし専ら子宮がん、乳がんの検診を行っています。さらに更年期障害の治療やそれ以降の女性が何時までも若々しく元氣いっぱいに活動し、ぼけたり骨粗鬆症で寝たきりになつたりしないよう、その予防のためにホルモン補充療法にも力を入れています。

皮膚科は専門医の長女が担当して、虫刺され、水虫、じんましんなど全身の皮膚のトラブルに関する一般診療の他、男性型脱毛症、巻き爪の矯正治療、ニキビに対してのケミカルピーリング、美白、また紫外線の照射で尋常性乾癬や重症のアトピー性皮膚炎などのかゆみに対応しています。

今後とも微力ながらも地域の皆様へ、出来る限りの医療を尽くして参りたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

病院祭が開催されました



まつもと医療センターの第3回病院祭が7月23日の土曜日、松本病院で開催されました。平成20年に独立行政法人化されて以後、地域に開かれた医療機関を目指して行われている恒例行事です。今まで秋に開催されていましたが、今年は、夏の開催になりました。沖縄の伝統芸能エイサーの発表に続き、大正琴。北野副院長によるフルート演奏、武井神経内科部長によるピアノ演奏。そして国内外で活躍されている桂聰子さんによるフルート演奏があり、澄んだ音色に皆が聞き入りました。松本病院でも撮影が行われ、8月



に公開された映画「神様のカルテ」の原作編集担当者の幾野さんのお話では、あまり表に出てこない夏川草介さんの人柄、患者優先の現在の医師生活などが披露されました。信州大学医学部附属病院の天野直二院長のお話があり、失念して誰もが自分は認知症ではないかと思う時があります。過去の食事や行動の記憶を辿ってみて、良過ぎるのも病氣と話されました。体力測定、体脂肪測定や、健康相談もおこなわれ、骨密度、血糖値の測定もありました。焼きそばや、バルーンアート、フリーマーケットもあり、お子様から高齢の方まで幅広い世代の住民の方の参加が得られました。来年は中信松本病院で開催されます。

統括診療部長 古田 清
病院祭実行委員長 古田 清



夕暮停船 ～震災前の小名浜港～



6月まで整形外科で活躍いただいた高沢先生から絵をご寄贈頂きました。福島県いわき市小名浜の港の風景を描いた油絵で、画家であった先生のお祖父さまの作品とのこと。アトリエに眠っていたたくさんの絵の中から当院にと選んでいただきました。描かれているのどかな港も、東日本大震災の津波で今はすっかり様相を異にしていると聞きしました。一日も早く、小名浜の港が、市民の皆様の記憶の中の活気あふれる風景に戻ることを願っています。

中信松本病院

はじめまして、2011年7月より整形外科として働かせていただいている狩野と申します。整形外科としては6年目となります。できるかぎりのことを精一杯がんばりますのでよろしくお願い致します。

- ・専門
一般整形外科
- ・所属学会資格
日本整形外科学会
中部整形外科学会
人工関節学会
骨折治療学会
- 整形外科専門医



整形外科
狩野 修治
かのう しゅうじ
平成16年卒

新任医師紹介

お知らせ

登録医大会のご案内

第2回まつもと医療センター登録医大会を次のように計画しております。詳細につきましては、改めてお知らせいたします。

日時 平成24年2月22日(水)
18:45～21:00

場所 松本 東急イン

多くの先生方のご出席をお待ち申し上げます。

★松本ぼんぼん

2011



2011年副連長
丸山 真人

8月6日に第37回夏まつり松本ぼんぼんが開催されました。「まつもと医療センター連」として今年も約100名の職員が参加して一体となって踊りました。

当日は天候にも恵まれました。普段交流の少ない職種とのつながりが出来るのも松本ぼんぼんの魅力の一つです。



まつもと医療センター

第14号 平成23年10月1日発行
発行人 院長 米山 威久

松本病院
〒399-8701 長野県松本市村井町南2丁目20番30号
TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183

中信松本病院
〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190
<http://mmccenta.jp/>

●編集後記●

広報誌を通じて地域の医療機関の皆様と末長く良好な関係を築いて行きたいと思っておりますので、今後とも指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



(S)